

簿記 3 級仕訳問題 第 8 回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売 掛 金	未 収 入 金
仮 払 金	前 払 費 用	未 収 収 益	立 替 金	有 価 証 券
支 払 手 形	買 掛 金	仮 受 金	前 受 金	未 払 費 用
前 受 収 益	現 金 過 不 足	預 り 金	引 出 金	売 上
仕 入	給 料	租 税 公 課	支 払 家 賃	水 道 光 熱 費
貸 倒 損 失	雑 益	雑 損	有 価 証 券 売 却 益	有 価 証 券 売 却 損

1. 小売業を営む当店は、前期 10 月 1 日に 1 年分の店舗家賃 ¥120,000 を支払った。決算日において、未経過分の家賃を月割計算で按分して繰り延べている。当期首における再振替仕訳をすること。会計期間は 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間とする。
2. かねてより保有していた日商株式会社の株式 1,000 株（帳簿価額 ¥600,000）を、本日 1 株あたり @ ¥650 で売却し、売却代金は当座預金に振り込まれた。手数料は考慮しないものとする。
3. 当店の当座預金口座に得意先より ¥50,000 の入金があったが、現時点でその内容については不明である。
4. 鮮魚店を営む当店は、本日氷見商店より仕入れたブリ 1 匹（原価 @ ¥300、売価 @ ¥500）を自家消費している。
5. 得意先六甲商店に販売した商品 3 個（原価 @ ¥5,000、売価 @ ¥8,000）が、破損により返品されたため掛代金と相殺することとした。その際、経理担当者が貸借を逆に間違えて計上しているため正しい金額に修正する。

簿記 3 級仕訳問題 第 8 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第8回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	支払家賃	90,000	前払費用	90,000
2	当座預金	650,000	有価証券 有価証券売却益	600,000 50,000
3	当座預金	50,000	仮受金	50,000
4	引出金	300	仕入	300
5	売上	48,000	売掛金	48,000

1. 問題文の読み取りがややこしいが、最終的に何が求められているのかまずは把握しよう。本問は期首の再振替仕訳を解答事項として求められている。本問は1年分の家賃を前払いしており、前期末において繰延処理が行われていることから、前払費用の再振替仕訳だと読み取れるかがポイント。
2. 有価証券の売却時の仕訳を求める問題。安易な問題だが、購入時の仕訳との違いをしっかりと理解しよう。
3. 取引内容が把握出来ない入金については、その詳細が判明するまでは仮勘定で計上する。本問は当座預金の入金については把握済みであるが、相手勘定が判明していない。この場合は仮受金勘定を使用して計上を行い、相手勘定が判明した時点で正しい科目に振り替える。売上の手付金として受け取る前受金との違いも明確にしておこう。
4. 自家消費の出題はそれほど多くは無いが忘れた頃に出題されるので注意が必要。また、自家消費した場合は売価ではなく原価で振り替えることに留意しよう。
5. 訂正仕訳の出題実績は多いが間違いやすい箇所でもある。本来は¥24,000で打ち消す仕訳を行うべきところを、貸借逆で計上しているので修正仕訳はその倍額の¥48,000で計上しないと整合しなくなる。売上の修正なので当然売価を使うが、本問では求められていないが、返品があった場合の商品有高帳の記入も含めて理解していれば鬼に金棒であろう。